

## 第 8 回富士山世界文化遺産学術委員会における主な意見（2月10日）

## 1 保全状況報告書について

- ・ 保全状況報告書の本文は国が作成するとのことだが、本委員会で報告する機会はあるのか。

## 2 来訪者管理戦略に係る指標等の設定について

- ・ 今回の調査結果において、特定の日・時間帯・場所に登山者が集中していることが分かった。あらかじめ登山者に混雑状況等を情報発信していけば行動パターンが変わり、もう少し平準化するのではないか。
- ・ 今夏に向けて色々な形で広報を行った結果、ピークが改善されれば、報告書は説得力を持つものになる。その対策として、PR、マイカー規制などを総合的に行うことで満足度は上がると思う。
- ・ アンケート調査において、どういうところに不満や危険を感じたのかを掘り下げて確認する必要がある。
- ・ ゴミは「0」を目標とすべき。今年の調査において、どこにどのようなゴミが発生しているのか分析を加えないと対策にどう結び付けるのかよく見えない。
- ・ どういうシミュレーションをするのが重要。例えば、トイレの数量や登山道・入山期間などの要素が変わるとどうなるかシミュレーションを実施し、最終的な目標値や結果にどう繋がるのかを示すとよい。
- ・ 文化的伝統の継承が何よりも文化遺産としての富士山の重要な部分である。外国人にも日本人が持っている霊山に対する気持ちが伝わるように取り組んでいく必要がある。
- ・ 「神聖さ」のような定性的な指標をどう盛り込むのか、ユネスコに分かってもらえるようなやり方を全体で考えていかなければいけない。

## 3 平成 27 年度経過観察指標に係る年次報告について

- ・ 改善後の写真ばかりが示されているが、提出する資料の目的を考え、改善状況、今後の計画等を写真付きで示した方がよいところもあると思う。
- ・ 静岡県にも世界遺産センターが完成する。良い情報は出来るだけ世界に知らしめたほうがよい。

# 各県関係者会議における主な意見

## 1 保全状況報告書について

特になし

## 2 来訪者管理戦略に係る指標等の設定について

静岡県	<ul style="list-style-type: none"><li>これまでの調査結果を踏まえ、来年度は、混雑解消に向けた具体的な対策を実施した方がいいのではないか。</li><li>富士宮口の山頂は、富士山本宮浅間大社の奥宮の前に御来光を見る人が集まるために、その下の登山道が混雑する。他にも御来光ポイントがあるので、そちらに誘導して、登山者を分散させないと九合目の混雑は解消されない</li></ul>
山梨県	<ul style="list-style-type: none"><li>1日当たりの登山者数は、天候の急変など突発的事態にも登山者を全て受け入れられるよう、山小屋の収容人数を基準にするのがよいのではないか。</li><li>データを見れば日中登山者は問題ない。山頂で御来光を見ようとする人が混雑を起こしているため、その対策が必要である。マイカー規制を連日ではなく週末のみの実施とすれば、登山者の平準化につながるのではないか。</li></ul>

## 3 平成 27 年度経過観察指標に係る年次報告について

特になし

## 4 その他

静岡県	<ul style="list-style-type: none"><li>村山古道は巡礼路がはっきりしていないため、巡礼路の特定を進めて欲しい。また構成資産を巡るコースについて検討し、コースを示して欲しい。</li></ul>
山梨県	<ul style="list-style-type: none"><li>山麓のトレイルコースなどは数多くあるが、標識などデザインがまちまち。距離表示なども含め、今後、対応を検討して欲しい。</li></ul>